

私たちは、この地球に修業しにきている

私がいっている美しい生き方というのは、たとえば死後にもものすごく影響することだと思っております。

地球は魔界と天界の境目にあるのです。政官財界や上流社会に多い悪智恵に長けた人たちはきつと魔界から来ているんでしょうね。そして天界から来た連中を魔界に引きずり込もうとします。

でもそうやってバランスがとれているのがこの地球。楽あれば苦あり。すごく悪いことがあった後に、ものすごくいいことが起きるようになっていく。この地球という星はそういう場所なのです。

そして私たちの開発途中の魂は、あらゆる人種、職業、容姿、性格と、あらゆるパターンの人間の人生を、心を、体験し、修業しなければならぬのです。あるときは黒人になったり、白人になったり、あるいは黄色人種になったり。男になったり、女になったり、私のように真ん中になってみたり(笑)。いろいろなタイプの人生を何千何万回と生まれ変わり、死に変わり、輪廻転生を繰り返して体験して生きていかなくちやいけないのです。そしてそこで苦労して勉強していく。

「私はどうしてこんなに孤独でひどい人生を歩まなくてはいけないのかしら」と思っても、実は、生まれる前にあの世で自分でプログラミングしてそれを選んで生まれてきたのだから、その人

はその人生を体験しなきゃいけない義務を持っている。この地球に修業しにきているのだから。だから文句はいえないわけ。

よく人生に疲れたからといって自殺する人がいるけれども、これは言ってみれば人生の職場放棄で人生の中途退学なのです。ですから次に生まれ変わっても、また一からやりなおさなければいけない。辛い思いをして死んだとしても、結局、また同じコースを生まれかわってきて同じことを繰り返さないといけない。だから自殺で死ぬのは痛い苦しい目にあっただけ骨折り損のくたびれ儲け、だからどんなに苦しくても辛くても人生は自然死までがんばったほうがいいということです。

反対に苦労が多い人生でも、前向きにすべてクリアして経験していくと、優しくて厳しくて温かい思いやりある、自信にあふれた人格へ成長していく。人間はその美しい姿、完全なる人格、つまり神と同じ純粹エネルギーに近づくために生まれてきているのです。靈魂とは、原子や電子、中性子、陽子などと同じように、未発見のエネルギー体である素子のひとつだろうといわれています。

たとえば迷っている幽霊や地縛霊というのはまだ自分に肉体があると思いついて、錯覚しているわけです。だから痛いとか苦しむ、悲しいなどと霊が勝手に思いこんでしまっているだけなんです。でも実際は肉体がなくて素子(靈魂)だけになっているのだから、本当は痛くも苦しくもないのです。霊の存在は自分の思い込み、想念だけなんです。ですから、たとえば「あたしは醜い女だ

からひがんでやる、妬んでやる、崇ってやる」と怨霊になっている霊に「あなたはすでに肉体がなく想念だけなんだから自分で醜いと卑下せずに美しいと思っごらんなさい」といつてあげる。そうすると、霊は「あっそうか。私は醜くなく美しかったんだ」と思い直し、安心し、心をいれかえるようになる。そうやって、仏さまのような平和な心になっていく。真理を説いて聞かせれば「仏のような心に成る」。これが成仏することです。

前向きに、純粹に美しく生きるということは・・・

もうおわかりですね。霊の世界も、この世と結局同じ。体より心の存在が大きいのです。想念が汚れている霊は汚れたままだし、想念が美しく清ければやはり霊も美しい。自分の気持ちが変わると即その気持ちの状態、つまり心象風景がそのまま投影されて、自分の住んでいる世界になるんです。要するに人間は死ぬとき的情念や想念がストップモーションになる可能性があり、その心象風景がそのまま住んでいる場所になる。自分が自分の思い込みで、勝手に自分を暗く、苦しめていたりするのも地獄といい、それを自分の発想の転換をはかって、楽しく美しく、明るいことを思い浮かべれば、即、自分が現在いる場所が、美しく明るく楽しい場所に変わります。「地獄極楽は胸三寸にあり」というのは、そういうことです。それが霊界のしかけなのです。

あの世ではこの世の権力や地位、肩書なんて何の役にも立ちません。本当に平等なのです。素子の魂が純粹で、美しければ美し

いほど、それに準じ比例した高いところにいける。

真つ黒で汚くて、恨みつらみ憎しみで想念が固まり、ストップしたままあの世で暮らすなんて嫌でしょう。だからこそ、私は現世で、ウォーミングアップとしてまず心の優しさ温かさ美しさを、いつも呼びかけているのです。そう、未来永劫、この世でも平和で安らかで美しく生きていくために・・・。

天声美語 講談社 美輪明宏